

あとの問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 次の①～⑤の——線の漢字のよみをひらがなで答えなさい。

- ① 漢字検定に合格したいと切に願う。
- ② 極上のステーキを食べたい。
- ③ 遠浅の海岸で潮干がりをしよう。
- ④ 準備運動で体を反らした。
- ⑤ 映画を見て感動し、号泣した。

(2) 次の①～⑤の——線のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 冬の短歌をイッシュ詠む。
- ② 大劇場でバレエのコウエンが行われる。
- ③ 図工の時間に作った作品を教室にテンジする。
- ④ 美子さんは学級委員にリッコウした。
- ⑤ 三月になり、ようやく寒さもヤワらいできた。

(3) 次の①～⑤のことわざと同じ意味のものをあとから選び、記号で答えなさい。

- ① かつばの川流れ
- ② 二階から目薬
- ③ 馬の耳に念仏
- ④ 寝耳に水
- ⑤ 弱り目にたたり目

ア	猫に小判	イ	さるも木から落ちる
ウ	泣きつ面にはち	エ	のれんに腕押し
オ	やぶから棒		

(4) 次の①～⑤の——線の漢字には誤っているところがあります。正しい字に直し、——線すべてを書き直しなさい。

- ① 友人に相図を出す。
- ② 消防所を見学する。
- ③ 専門家を招く。
- ④ 駅の利用者が减小する。
- ⑤ 異句同音に賛成する。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数については、「、」「や」「。」も一字に数えます。)

意外に思うかもしれませんが、カタツムリは基本的に夜行性です。雨の日には昼間でも見かけますが、晴れた日は葉っぱの裏側などの日陰にそっと潜んでいます。①、夜になると活動を始めます。室内で明るさを一定にしても、決まった時間に活動を始めるので、体内時計をもっていると考えられています。

② カタツムリが夜行性になった理由は、いくつか考えられます。

行動が遅いカタツムリは、多くの肉食動物にとって狙いやすい食料となります。カタツムリを食べる生き物にはさまざまなものがありますが、カタツムリにとっても危険な天敵は、すばやく空から襲ってくる鳥類です。鳥類のほとんどは昼行性なので、夜はねぐらで休んでいます。そのため、カタツムリは夜に活動するほうが安全です。

晴れた日の昼間は、日光が降り注ぎます。カタツムリは陸上生活に適応した軟体動物とはいえ、乾燥への耐性は未熟です。とくに、活動しているあいだはからだを殻から出さなければなりません。いっぽう、夜間は日中と比べて湿度が高いため、乾燥してカラカラになってしまう危険性が低いのです。

ヒトは、周囲の環境について多くの情報を視覚から得ています。②、カタツムリは違います。1対の大きなツノ(触角)の先端にある小さな眼は、明るさを感じる程度にしか機能しておらず、おもに触角や嗅覚によって周囲の環境を知覚していると考えられています。そのため、夜間に活動することに問題はありませ

ん。カタツムリが夜行性だといっても、私たちがカタツムリと出合いやすいのは、やはり雨の日の日中です。カタツムリにとって、雨の日であれば夜間と同じように外敵が少なく、乾燥の危険もありません。明るい時間に活動する私たちにとって、夜にカタツムリを見つけることは難しく、出会うことはほとんどありません。

カタツムリが眠っているのは、晴れた日の昼間だけではありません。激しい風雨の日も、安全のために休んでいます。

そしてさらに長期間、眠り続ける時期があります。冬眠です。カタツムリが冬眠に入る時期は生息する地域によって異なりますが、東京近郊では10月から11月ごろです。落ち葉の下、石や倒木の隙間などに潜りこんで冬眠（休眠）します。

リスやコウモリなどの冬眠するほ乳類は、冬眠中に体温を下げ、エネルギーの消費を抑えます。そのため、冬眠中は深い眠りに入っていて、めったなことでは起きません。しかしカタツムリは、もともと体温が高い生き物ではありません。ほ乳類は恒温動物と呼ばれ、体温を一定に保つシステムが発達していますが、カタツムリなどの軟体動物は両生類、は虫類などと同じ変温動物で、体温は周囲の気温とほぼ同じです。冬眠からさめてもほ乳類のように体温を上げる必要はなく、すぐに動き始めることができます（カタツムリはもともと速くは動けません）。そのため、カタツムリは冬でもずっと眠り続けているわけではなく、暖かければ起きて活動することもあります。

さらに、カタツムリは夏の暑い時期には冬眠ならぬ夏眠をします。暑い時期は水分が蒸発しやすいので、乾燥が大敵のカタツムリにとっては厳しい時期なのです。

晴れた日の日中はもちろん、激しい雨の日も、寒い季節も、暑い季節も休むだなんて、なんだか休んでばかりのようです。カタツムリがいつも殻を背負っているのは、私たちがいつもベッドを背負っているようなものかもしれません。

カタツムリは、眠っている間は乾燥を防ぐため、殻の入り口をタンパク質の膜でふさいでいます。この膜のことをエピフラム^⑤と言います。呼吸をするための小さな空気穴がちゃんと開いています。種によって和紙のように白いエピフラムがあれば、セロファンのように透明なエピフラムもあります。

軽い休眠のときは殻の入り口近くに1枚のエピフラムがあるだけです。乾燥が激しいときや深い休眠のときなどは、からだを殻の奥に縮め、エピフラムを2重3重に張ります。この膜が張っているときは、乾燥や寒さに強くなります。

休眠中のカタツムリが葉っぱの裏などに密着して外れないのは、じつはこのエピフラムによって殻が葉っぱに接着されるからです。

カタツムリといえば、葉っぱの上にいるイメージがあります。そのイメージどおり、カタツムリは植物が好物で、カタツムリの多くは植物性のものを食べています。

昆虫などは食べる植物の種が決まっていることがありますが、カタツムリは基本的に身近にあるさまざまな植物を食べています。生息環境によって多少の傾向はありますが、草の葉っぱはもちろん、木の芽や花びらだって食べますし、コケやキノコ、藻類も、よく食べます。生きている葉っぱも食べますし、微生物などによる分解途中の落ち葉を食べることもあります。

さまざまな食べ物を食べることは、移動能力が低いことと関係があると考えられています。もしも特定の植物の葉っぱしか食べられないと、その葉っぱを探すために周辺の環境をいつも探しまわらなければなりません。そうすると相当の時間がかかりますし、そのぶんエネルギーも消耗します。しかし、いろいろな種類の植物を食べられるなら、食べ物を探す時間もエネルギーも節約することができます。食べ物を見つけること自体が大変なのに、いちいち好き嫌いを言っていられない、というわけです。

野菜やキノコを栽培している農家にとっては、カタツムリは困った存在です。柔らかくて食べやすい葉物野菜やキノコは、ヒトにとっておいしいだけでなく、カタツムリにとっても絶好の食べ物なのです。甘くておいしいイチゴの実だって食べてしまいます。

（野島智司『カタツムリの謎』より。※一部表記を改めたところがあります。）

問1 1 3 にあてはまることばを次から選び、記号で答えなさい。

ア そして イ つまり ウ ただし エ しかし

問2 ——— 線①「雨の日には昼間でも見かけます」とありますが、カタツムリがこのような時に活動しやすいのはなぜですか。その理由にあたる一文を探し、はじめと終わりの7字をぬき出しなさい。

問3 ——— 線②「カタツムリが夜行性になった理由は、いくつか考えられます」とありますが、「カタツムリが夜行性になった理由」を、文中のことばを使って三つ書きなさい。

問4 ——— 線③「リスやコウモリなどの冬眠するほ乳類」とありますが、ほ乳類とカタツムリの冬眠のちがいを「ほ乳類はくに対してカタツムリはく」というかたちで答えなさい。

問5 ——— 線④「ばかり」と同じ使い方をしているものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 集会には近所の人が三十人ばかり参加した。
イ 花子さんは今にも歌い出さんばかりに歩いている。
ウ クリスマス用のケーキが今焼き上がったばかりだ。
エ 父は仕事から帰るといつも野球中継ばかり見ている。

問6 ——— 線⑤「この膜のことをエピフラムと言います」とありますが、「エピフラム」について説明したものとしてあてはまるものには○、あてはまらないものには×を答えなさい。

ア カタツムリの種によつて様々な種類のものがある。
イ 休眠中に乾燥や寒さから身を守るために作られる。
ウ 殻の入り口を完全にふさいでしまうので息苦しい。
エ 殻を葉っぱに密着させるので外れないようになる。
オ 一生に一度しかエピフラムを張ることはできない。

——線⑥「カタツムリは基本的に身近にあるさまざまな植物を食べています」とありますが、その理由を次のようにまとめました。

カタツムリは ア(7字) ため、食べ物を探すのに多くの イ(2字) や ウ(5字) がかかってしまうが、さまざまな植物を食べられるなら イ や ウ を節約することができるから。

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数については、「、」「や」「。」も一字に数えます。)

転校生の始^{はじめ}は、教室を飛び回る不思議な存在「びりつかす」を目にする。みんなはびりになるとびりつかすが見えるようになり、心の中で会話もできるようになることを知って、おもしろがってびりを取るようになった。しかし最近、びりつかすの元気がないようで気になっていた始^{はじめ}は、運動会前日の練習で、わざとびりになろうとクラスメイトに持ちかけ、リレーで力をぬいて走った。

ダンスとつなひきの練習のあとが、リレーだった。全員がトラックを半周ずつ走る。ほかのクラスは、もちろん本気だから、ちよつと気をぬくだけで、かんたんにびりをとることはできた。はじめて一位になった三組は、大よろこびだった。くそつ。ほんとはおれたちのほうがはやいんだよ。

浩一^{こういち}などは、そういつてくやしがつた。始^{はじめ}は、そんな気分がびりつかすの力になるな、と思った。そしてじつさい、びりつかすは朝より元気になったように見えた。始は自分の思いつきがうまくいつて、うれしかった。だが、給食のとき、けいこう灯に腰かけたびりつかすが、いいにくそうにいつた。

——みんなの気持ちはうれしいけどな、ちよいとまちがつてるみたいに思うね、おれは。

——わたしもそう思う。

そうつづけたのはみゆきだった。始はおどろいてみゆきの顔を見た。始だって、リレーでは、テストとちがつて、わざと負けるのはいやだった。だけどそうしなければ、びりつかすがよわると思つていいだったのだ。^②みゆきはそのあたりの気持

ちをわかつてくれていると思っていた。

——ね、二組に清田くんって子がいるでしょ。足がすこしわるい子。

なんの話をするのだろうと、みんなはみゆきの話を聞いた。

清田くんとは、みんな知っている。足を内がわにまげるようにあるく。もちろん、走るときもそうだ。

——清田くんはいつしようにけんめい走ってたわ。いつも、そう。でもいつだって、清田くんのところで、二十メートルくらいおくれるでしょ。だからつてわけでもないけど、二組はいつもぶりよね。

——きょうはぶりから二番でよかつたじゃないか。よろこんでたぜ。

浩一の声に、みゆきはすぐにいいかえした。

——それ、ほんとによかつたのかな。もしもわたしたちがわざとぶりになつたつて、清田くんが知ったら、それでもよろこぶかな。

みんな、すこしだまつた。始は、公園でのみゆき（わざとぶりになった始を注意したみゆき）を思いだしていた。給食の音だけがきこえる。俊也としやの声がした。

——いま、きいていてさ、それとちよつとちがうんだけど、^③反対のこと考えてたんだ。

——反対のこと？

だれかがききかえす。

——うん。つまり、清田くんのいる二組に、ぼくたちずっと勝つてたよね。で、よろこんでいたじゃないか。あれ、ほんとにうれしかつたんだろうかつてさ。

そういわれればそうだな。みんなはすこしだまつた。つぎにきこえたのは、^④征二せいの声だつた。

——それじゃあ、計算や漢字はどうなる？ おれ、このごろはいつしようにけんめいやつてるよ。それでも5、6点だろ。俊也なんて、いつしようにけんめいやつてるみたいに見えないのに、10点とれるじゃないか。こんなおれに勝つて、うれしいかい？ 俊也。

——ええつ？ まいつたな。ううん、とくにうれしいつて思つてるわけじゃないと思うけど……。そんなこと、考えもしなかつた。

——わたし、リレーのこといつてんのよ。

話をもどそうとするみゆきに、浩一がうなずいた。

——そうだよ。リレーとテストはちがうよな。

けれど征二はひきさがらない。

——だつて、どちらも勝ち負けじゃないか。得点で席がきまるんだぜ。^④たまんないよな。

——ということは、成績順に席をきめるつてのがいけないのかな。

始がつぶやくようにいうと、征二は大きくうなずいた。

——いけない、いけない。考えてくれよ、おれなんか、参観日がどれだけつらいか。

——わたしがいるからいいじゃない。

——みゆき、おまえんちは、やおやのかあちゃんだから、参観日にやこないじゃないか。

あ、みゆきの家つて、やおやさんだつたのか、と、始は思った。やおやのかあちゃん？

——みゆき、お父さんは？

始は、心の小声でたずねてみた。

—— あんたんとことちよつとちがうけど、いないの。
みゆきの小声がもどってきた。

そうか、みゆきもお父さんいないんだ。だからぼくに親切だったのかな。始は、ハンバーグをらんぼうに切りわけているみゆきを、そつと見た。みゆきは、心の大声でみんなにいった。

—— あすが運動会なのよ。リレー、どうすんの？

—— 清田、なあ……。あいつ、ほんとにいつしようにけんめい走るもんなあ……。

浩一のため息のあと、俊也のこまつた声がきこえた。

—— ぼくたちが本気で走れば勝つ。けれどうれしくない。わざと負ければ、清田がうれしくない。どうすりゃいいんだ。

—— ということは、リレーつてのがいけないのかな。

始が、みょうなまめかたをしようとする、めずらしく英子がふりむいた。

—— あのね、そんなことをいいでしたら、なにもかもいけないことになつちゃうわよ。野球だつて、すもうだつて、しょうぎやオセロだつて。

—— そういわれば、たしかにそうだった。

しばらく、みんなだまつた。きゆうに、京子が小さな声でいいでした。

—— あのう、わたし、いつてもいい？

—— そんなことたずねなくてもいいのよ。京ちゃんのいうこと、きいてよ、みんな。

みゆきが大きな声でいうと、浩一がまぜかえした。

—— おいおい、清田だけじゃないよ。うちにも京子がいたよ。

⑥ 浩一！ さあ、京ちゃん、はなして。

みゆきのはげましに、京子はさつきより大きな声ではなしました。

—— あのう、そうなの。わたし、おそいの。で、学級対抗リレーつて、おそいひとから順に走ることになってるでしょ。だから、わたし、清田くんといつしよにスタートのところで走ってる。清田くんとは、一年と二年のときおなじクラスだったし、家も近いから、よく知ってるの。で、きょう、わざとゆつくり走ったでしょ。もともとおそいんだけどね。それでも清田くんよりはやいじゃない。そしたら、清田くん、走りおわつて、はあはあいいながら、京ちゃん、ちようしがわるいのつて、心配してくれたんだ。わたし、なんだか清田くんにわるいことしたなつて思った。だつて、清田くんは、ほんとにいつしようにけんめい走ってるんだもん。だから、わたし、みゆきちゃんのいうように、わざとびりになるの、しないほうがいいと思うの。

みんな、すこしだまつた。

(岡田淳『びりつかすの神さま』より。※一部表記を改めたところがあります。)

問1 線①「そんな気分」とありますが、どのような気分ですか。説明しなさい。

問2 ———線②「みゆきはそのあたりの気持ちをわかってきていると思っていた」とありますが、始はみゆきがどのようなことをわかってきていると期待したのですか。「びりつかす」ということばを使つて、くわしく説明しなさい。

問3 ———線③「反対のこと」とありますが、それはどのようなことですか。最もあてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 走るのがおそい相手とたたかうときには、必ず手かげんをすべきだということ。
イ わざとびりになったことが相手に知られると、とてもはずかしいということ。
ウ 勝つと分かっている勝負に勝つことは、本当に喜んでよいことなのかということ。
エ 一組と二組とだけ競い合っていたのだが、三組の結果も無視はできないということ。

問4 ———線④「たまんないよな」とありますが、征二はどんなことに対して、どのような気持ちで言つたのですか。わかりやすく説明しなさい。

問5 ———線⑤「まぜかえし(す)」の意味として最もあてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

まぜかえし(す)

ア 相手の話とは全くべつの、関係のない話を持ちかけること
イ 相手の話をかき消してしまうほどの、大きな声でさげぶこと
ウ 相手の話と同じ話を、別の言葉で言いかえ分かりやすくすること
エ 相手の話に口出ししたり、ちゃかしたりして混乱させること

問6 ———線⑥「浩一！」とありますが、みゆきはこれをどのような様子で言つたと考えられますか。あてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 浩一の言いたいことは伝わったから、それ以上言わなくてもいいと伝える様子
イ せっかく話し出した京子が話せなくなると困るので、浩一をたしなめる様子
ウ いつでもくだらないことしか言わないので、浩一をだまらせようとする様子
エ 浩一よりも京子が話し出したのが先なので、順番を待つように注意する様子

問7 ~~~~~線「ちよいとまちがつてるみたいに思うね、おれは」とありますが、「びりつかす」は(1)何が、(2)なぜまちがつていると言っているのですか。それぞれわかりやすく説明しなさい。

問8 次の各文は、本文中のだれのことをいつていますか。あてはまる人物をあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 勉強は苦手だが正しいことをはつきり言おうと、積極的に会話に参加しつつ、周りの友人への気配りもしている。
- (2) 引^こつ込み思案でおとなしい性格なので人前で発言することは少ないが、この場面では勇気を出して発言している。
- (3) 優秀^{しゅう}で成績もよく、周りのことをよく見ていろいろな角度から冷静に物事を考えることができる。

ア みゆき

イ 俊也

ウ 京子

エ 征二

得点

受験番号		氏名
------	--	----

[illegible]